

学校評価アンケート結果

<確かな学力>

回答者	質問内容	昨年度	今年度	目標数値
児童	授業が分かる	98	98.9	90
教職員	授業のユニバーサルデザイン化や誰一人取り残さない教育の実践に努めた	100	100	
保護者	学校は、一人一人を大切に学習指導を行っている	—	79.4	
児童	漢字の日、計算の日のテストに向けて進んでテスト勉強に取り組めた	—	89.7	
教職員	基礎・基本の定着のために計画的な指導と指導の工夫ができた	100	100	
保護者	学校は、漢字・計算の基礎・基本の定着に取り組んでいる	100	89.7	
児童	他の人の意見をしっかり聞いて、自分の考えをまとめることができた	97	94.3	
教職員	互いに考えを伝え合い、自分の考えを深める学習活動の場と方法の工夫ができた	81.8	100	
児童	タブレットなどを使って調べたり、作ったりしたものを他の人に伝えたりすることができた	96	97.8	90
教職員	授業の中でICT機器を1日1回以上活用できた	90.9	88.9	
教職員	情報収集や活用能力、情報モラルの育成に取り組めた	81.8	100	
児童	学校の図書室の本を読んでいる	—	78.2	
児童	家庭学習では、授業で学習したことを生かして宿題や自主学習に取り組むことができた	—	94.4	
保護者	お父さまは、家庭で、宿題や自主学習に進んで取り組んでいる	—	78.2	
教職員	研究テーマを意識した授業実践や自分の資質向上のための研修に努めた	90	100	

○成果

- ・学校は、昨年度よりタブレット端末を積極的に活用した授業に取り組んでおり、児童も使うことに慣れ、調べ学習やタブレットを用いての発表技能が向上した。
- ・学校は、深い学びを意識した授業研究や実践するための研修に取り組み、分かりやすい授業に努めた。その結果「授業が分かりやすい」と回答した児童が多かったのではないかと。

●課題

- ・児童の図書室利用率が低い。

◇改善策・向上策

- ・図書室の利用率が低いのは、全体的に見て利用機会が少なく、図書室によく通う児童とそうでない児童がはっきりと分かれていることが原因である。多くの児童が図書室を利用できるように、①年度途中から行っている朝の貸し出しを継続する、②図書室に定番図書を増やす、③クイズやビンゴ等のイベントを行うなど、図書室へ行きたくくなるような取組を行っていく。
- ・今は意識していなくても目や耳から自然に情報が入ってくる時代だからこそ、読書を推進し、その一つとして図書室に行くことを家庭で保護者が促す協力を求めることも大切である。

<豊かな心の育成>

回答者	質問内容	昨年度	今年度	目標数値
児童	学級や学校は楽しい	100	97.7	90
児童	他学年の人との交流は楽しい	99	90.9	90
児童	友達のよいところを見つけ、仲よくすることができた	98	95.5	
保護者	お父さまは、学校に毎日楽しく通っている	—	96.9	
児童	先生は話を聞いてくれる	—	94.4	
教職員	自他の人権を尊重し、一人一人のよさを認め合う集団づくりに取り組めた	100	100	
教職員	ポジティブ教育に計画的に取り組めた	90	100	
保護者	学校は、お父さまの話に耳を傾け、悩みごとなどに丁寧に対応している	98.2	79.4	

児童	道徳の授業では、学級で話し合いながら、自分の考えをもつことができた	—	95.5	
教職員	考え、議論する道徳の授業実践に努めた	66.7	77.8	
保護者	学校は、思いやりの心や善悪の判断、人権の尊重など道徳教育に取り組んでいる	95.4	85.5	85
児童	作物や植物を育てる学習に進んで取り組んだ	99	98.9	
教職員	地域の人材を生かした体験学習に取り組めた	90	100	
○成果				
・野菜作りの学習で、会議室の前の花壇を畑に変えたことで野菜の観察に取り組みやすくなり、主体的に取り組むことにつながった。				
●課題				
・学校の児童への対応において、保護者の肯定的な回答がやや低めだった。				
◇改善策・向上策				
・学校が、児童も保護者も安心できる場となるように、丁寧な傾聴にさらに心がける。聞き取った内容を、児童の気持ちに寄り添って受け止め、また、理解を深めるためにも複数の教職員で対応する。				

<健やかな体>

回答者	質問内容	昨年度	今年度	目標数値
児童	感染予防のために、石けんでの手洗いや人とのきよりに気を付けることができた	97	93.2	90
教職員	健康への関心を高め、感染症予防のために必要な行動様式の指導ができた	100	100	
保護者	お子さまは、家での検温や石けんでの手洗いなど感染症予防に取り組んでいる	94.5	89.6	
保護者	学校は、消毒、マスクの着用、換気、社会的距離など感染症予防に取り組んでいる	—	98.9	
児童	交通ルールを守って、安全に集団登校・下校ができた	94	93.1	90
教職員	集団登下校の交通安全指導ができた	90.9	100	
保護者	学校は、登下校時の交通安全指導に取り組んでいる	96.3	89.7	
児童	地しんや火災時のひなん訓練や不しん者対応のひなん訓練で命を守る方法を理解することができた	—	98.9	
教職員	防災・防犯訓練を通して自ら命を守る力の育成ができた	90.9	100	
保護者	学校は、地震・火災・不審者対応時の避難訓練に取り組んでいる	—	91.7	
児童	「らんらんタイム」の体力づくりでは最後までがんばることができた	96	96.6	85
教職員	縦割り班による体力づくりでは児童の活動を支援できた	90.9	88.9	
○成果				
・児童の体力向上に向け、感染症対策を講じて縦割り活動(らんらんタイム)を計画的に実施できた。				
●課題				
・学校は、縦割り班での体力づくりにおいて児童の支援の工夫が必要である。				
◇改善策・向上策				
・昨年度よりも縦割り班の活動が少なく、その分十分な支援・指導ができなかったと感じる教職員もいる。来年度は、業間の時間における縦割り活動を見直し、らんらんタイムやさつまいも掘り等の活動がより充実できるように計画していく。縦割り活動に加え、異学年交流のあり方も工夫し、担任以外の教員と児童とのよりよい関係づくりにつなげる。				
・交通安全や犯罪未然防止対策として防犯カメラの設置が必要だと考えるので、市に対し繰り返し要望していく。				

<開かれた学校づくり>

回答者	質問内容	昨年度	今年度	目標数値
児童	進んであいさつができた	96	96.6	90
教職員	あいさつの指導ができた	—	100	
保護者	兵庫小学校の児童は、地域の方へのあいさつができています	80	80.2	
児童	スマートルール（おうちの人と決めた約束）を守ることができた	83	85.3	80
教職員	スマートルールの取組について定期的に指導ができた	80	100	
保護者	お子さまは、スマートルール(各家庭で話し合ったインターネット利用等の約束)を守っている	65.5	65.7	
保護者	学校は、情報モラル教育に取り組んでいる	—	77.3	
教職員	おたよりやホームページなどで情報発信ができた	90	100	
保護者	学校は、学校やお子さまの様子が分かるよう、おたよりやホームページなどで情報を発信している	97.2	96	90
保護者	学校は、お子さまのことで相談できる	—	87.6	

○成果

・あいさつ名人カードの配付や地域の方からいただいた言葉を児童に伝えることで、あいさつに対する意識が高まっている。

●課題

・学校の情報モラル教育実施に対する保護者の肯定的な回答が低い。
 ・児童はスマートルールを守っていると感じていて、学校も定期的な指導ができたと振り返っているが、保護者の肯定的な回答は低い。

◇改善策・向上策

・あいさつをする子は増えたが、声が小さいので大きな声で元気よくできるよう指導を行う。
 ・情報モラル教育は、機会を逃さず、必要に応じて、また問題行動の未然防止につながるよう積極的に実施している。今後は、指導内容や坂井警察署生活安全課の協力を得て行っている「ひまわり教室」で学んだ内容を発信し、保護者と共有していく。
 ・学校(担任)も、スマートルール作成にかかわることで、家庭学習支援として家庭と学校が連携していく。
 ・高校で探究学習や嶺南の美浜の小学校でも地域と連携した総合的な学習の時間の取組がニュースになっている。地域学習の中で地域の活性化を考えていくことも大切だが、歴史あつての現在なので、兵庫地区の歴史を学ぶ学習を行ってほしい。修学旅行前には奈良県の興福寺との繋がりについての学ぶ機会があるとよい。兵庫小学校150周年記念事業を行う中で、児童にとってこれまでの小学校の歴史を振り返る機会とし、この地区に生まれたことに感謝し、ふるさと愛を深め、将来地域で貢献したいという思いを育みたい。